

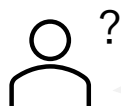
求められる事項への対応状況「自己点検シート」の活用について

(令和7年3月公表)

◆ 背景・課題と本資料のねらい

- スマートシティ等の各地域では、データ連携基盤を活用したサービス実装が着実に進められているが、**基盤の利活用が進み、多様なサービス提供・利用者が広がるにつれて、インシデント発生時の影響は大きくなり、基盤の整備主体は安全性等の対策に万全を期することが一層求められるとともに、継続的にその状況を把握し、必要な対応をとることが求められる。**
- 基盤を活用した取組が安全かつ円滑に進められるよう、**既存の知見を「データ連携基盤に求められる互換性・安全性・プライバシーに関する事項 (以下、求められる事項)」として整理して分かりやすく提供しているが、整備主体（多くは地方公共団体）にとっては、体制・ノウハウ等の観点から、これに沿って継続的な対応を行っていくことは必ずしも容易ではない。**
- こうしたことを踏まえ、基盤の整備主体が継続的に安全性等の対策状況を把握・確認し、必要な対策を効果的に行うことができることをめざし、スーパーシティなど先行して取り組む地域の事例をもとに、その実施方法等について参考資料として整理した。
- スマートシティ等の各地域においては、住民や事業者が安心のもとでデータ連携基盤を活用したサービスの提供・利用ができるよう、本資料も参照の上で、継続して安全性等の確保に取り組んでいただくことを期待する。

【想定される地方公共団体での課題と本資料の関係】



技術的な知見を持った職員が多くなり、担当職員も異動等がある中で、
どのように「求められる事項」に沿って安全性等を確保すべきか、また、その確認を行ってきたかというノウハウが引き継がれない

一定の共通フォーマットによって「求められる事項」の各項目について適合状況等を把握・評価し、判断理由や改善ポイント等を見える化。過去の把握状況等を継続的に引き継ぎつつ、関係者間で共通の認識のもと対応を行う。

ポイント1

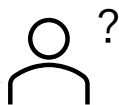


仕様書等で開発や運用を委託する事業者（ベンダー）に「求められる事項」に準拠するよう求めているが、
具体的にどのような対応状況であるか、その根拠がどのようにになっているか十分把握できておらず、過不足の判断も難しい



整備主体・ベンダー・第三者（外部有識者等）といった関係者が連携して、安全性等の確保の把握・評価を行う手法と
その役割分担について考え方を提示。効果的・合理的に継続的な対応を可能とするための体制を構築。

ポイント2



ポイント1 自己点検シートの活用方法

◆ 自己点検シートの活用方法のポイント

- 単に「○(適合)、×(不適合)」といった結果を記載するだけでは、なぜそのように判断したのか、どのように改善すべきかが不明確となる。
 - ⇒ ○△×の判断に至った「判断理由・エビデンス(証跡)・是正方針」等を記載することで、関係者間で評価の根拠を検証可能となり妥当性を複層的にチェックできるとともに、回答者個人の主観によることなく評価に対する説明責任を果たすことが可能となる。
- その都度、バラバラの評価シート・評価方法で実施すると、過去の判断根拠が不明確となり、改善すべき点が改善されない。
 - ⇒ 過去の評価を蓄積することで、担当者が異動等で変わった場合にも対応状況・ノウハウの引き継ぎを可能となる。また、前年度と対応状況に変更のない事項に対する評価が合理化できるほか、要改善点を認識しやすくなり効果的な対応が可能。

#	大項目	中項目	小項目	求められる事項	重要	参照先	事業者回答				第三者による評価		事業者回答(前年度)				第三者による評価(前年度)	
							自己確認	判断理由	エビデンス	是正方針	確認結果	第三者によるコメント	自己確認	判断理由	エビデンス	是正方針	確認結果	第三者によるコメント
1	互換性	データ仲介(ブローカー)	共通(機能要件)	ビルディングブロック方式を採用していること	○	中間とりまとめ(P23)	①	②	③	④	⑤	⑥			前年度の回答を記載			

①

○△×で回答実施
※第三者による評価踏まえ、最終化する

💡

- ✓ 評価結果を一覧性をもって確認できるよう毎回統一したルールで記載する

○：十分に実施できている
△：一部実施できている
×：実施できていない

②

○△×の評価理由を記載
※第三者による評価踏まえ、最終化する

💡

- ✓ 関係者間で評価の妥当性を確認するためにも評価理由は分かりやすく、かつ、簡潔に記載する
- ✓ 前年度と変わった点は赤字で記載するなど、変更点が分かりやすくなるよう工夫する

③

○△×の証跡となる文書・リンク先等を記載

💡

- ✓ 証跡を残すことで、担当者の引き継ぎが容易になるとともに、判断理由の客観的に説明責任を果たすことができる
- ✓ 証跡を残すことが、判断理由の妥当性を見直すきっかけにもなる

④

評価が△×の事項に関して
是正案を記載

💡

- ✓ 是正案を検討して終わりではなく、具体的に「何を」「いつまでに」実施するのか明確にする
- ✓ 現在は対応不要でも、機能拡張や新サービスを提供する場合など将来検討が必要なものも申し送る

⑤

第三者による評価結果を記載

💡

- ✓ ②～④の内容を確認し、①の結果に引きずられず、第三者目線でフラットに評価する

⑥

第三者による助言内容を記載

💡

- ✓ ⑤の評価結果の理由を記載するとともに、④の是正案に対する助言を記載する
- ✓ 適合していたとしても、よりよくするためにはという観点での助言や将来的な課題の指摘も有効

ポイント2

自己点検の実施主体・役割に関する考え方

◆ 自己点検の実施主体・役割に関する考え方のポイント

- 「整備主体」は、開発・運用を委託する「事業者（ベンダー）」と連携・協力して自己点検シートを活用した評価を行うことで、ベンダー任せ、属人化しやすい対応状況について、判断理由やその根拠資料について共通理解のもとで把握・文書化することができ、主体的に対応することが可能となる。
- また、必ずしも、庁内に技術的な知見を有する担当者が豊富ではない中、評価の妥当性や客観性を担保し、より効果的な自己点検を行うためにも、「第三者（外部有識者等）」に助言を受けることも有益な方法となる。

【「第三者評価」の導入ポイント】💡

推奨スキル

- 以下のような知見を有する「第三者」に助言を得ることが考えられるが、必ずしも一人ではなく、それぞれの得意分野に応じて複数人に項目を分けて助言を得ることも十分にあり得る
 - スマートシティに関する一定の理解（サービスとの関係性や想定されるリスク・・・etc）
 - サイバーセキュリティに関する一定の理解（セキュリティに関する項目・・・etc）
 - 個人情報保護・プライバシーに関する一定の理解（プライバシーに関する項目・・・etc）

想定される第三者

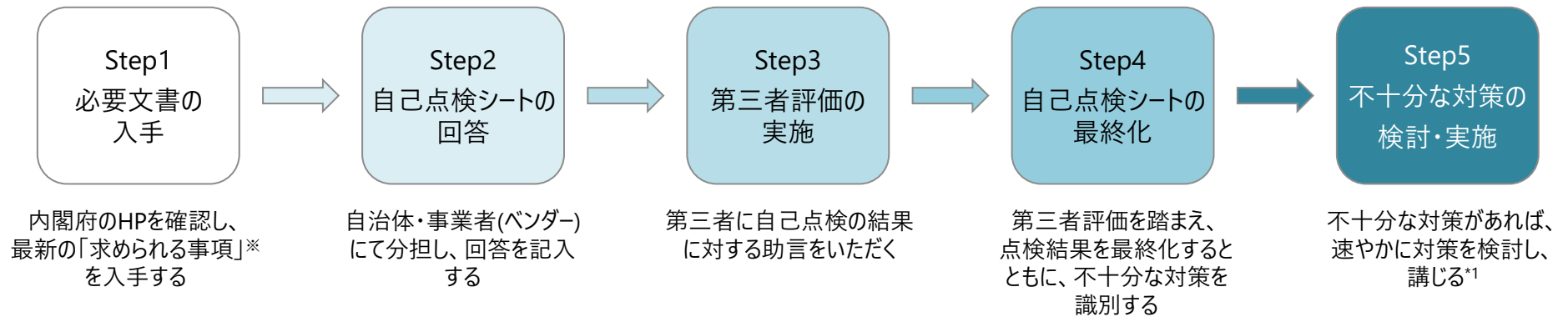
- 各地域の事情により、採用可能な選択肢は異なることが想定されるが、①→②→③の順に検討することが推奨される
 - ① 安全性等に関する外部有識者や委員会が庁内に既に設置されている場合は、活用を検討する
 - ② 設置されていない場合及び、①の活用が難しい場合は、スポット的に外部有識者へ評価を依頼する^{*1}
 - ③ 予算等の都合等により、②がどうしても難しい場合は、庁内の評価を実施可能な別担当者(ex. システム部門等)に依頼する^{*1}

^{*1} 安全性・プライバシー等に関する情報は外部に漏洩した場合、サイバー攻撃の標的にされかねないため、依頼は慎重に実施すること

※ 「整備主体」と「事業者」の関係性や庁内の体制は各地域において様々であることが想定されることから、必ずしも第三者評価が必要となるわけではない。また、後述「自己点検の事例」でも示すように、全ての項目について第三者から助言を受けずとも、特に重要な項目や、判断に悩むポイントに限って助言を受けることも考えられるため、各地域の実情に応じて判断することが有益。

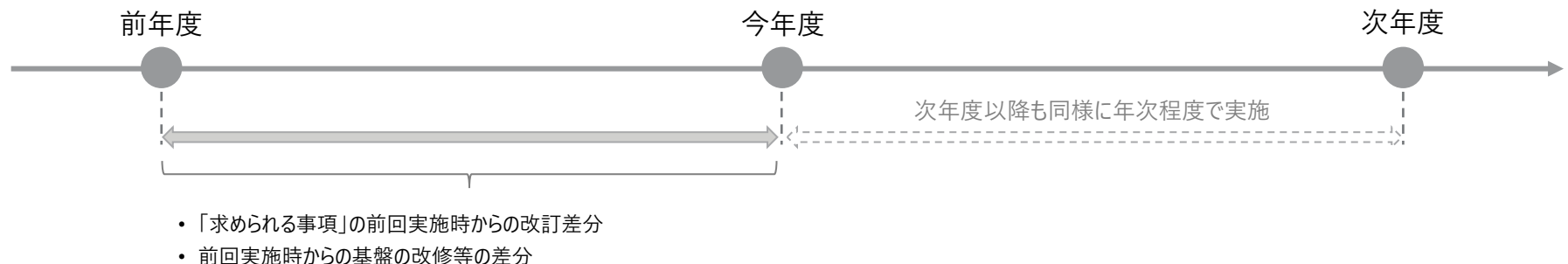
【参考 1】 自己点検の実施手順

◆ 自己点検の実施プロセス



- 「求められる事項」が引用するガイドラインや法令の改定が定期的に行われるほか、基盤においてもシステム改修・体制変更等が生じ得ることから、**年次程度での自己点検を行い、最新の対応状況を確認することが推奨される**
(ただし、大幅なシステム改修を行った場合や、取り扱うデータの種類が大きく変わった場合などは、都度確認することが望ましい)
- また、ガイドラインや法令の改定によって「求められる事項」が改定された場合は、特にその差分に留意して自己点検を行うことが**必要** (過去実施した点検結果を参照しながら、変更点に対して点検すること)

※「自己点検シート」は、「求められる事項」の一部として内閣府HPにて公開



*1 特に、重要○となっている事項に関しては十分な対策を講じることを推奨する

【参考2】 自己点検の事例 (初回点検の事例)

◆ 事例ポイント

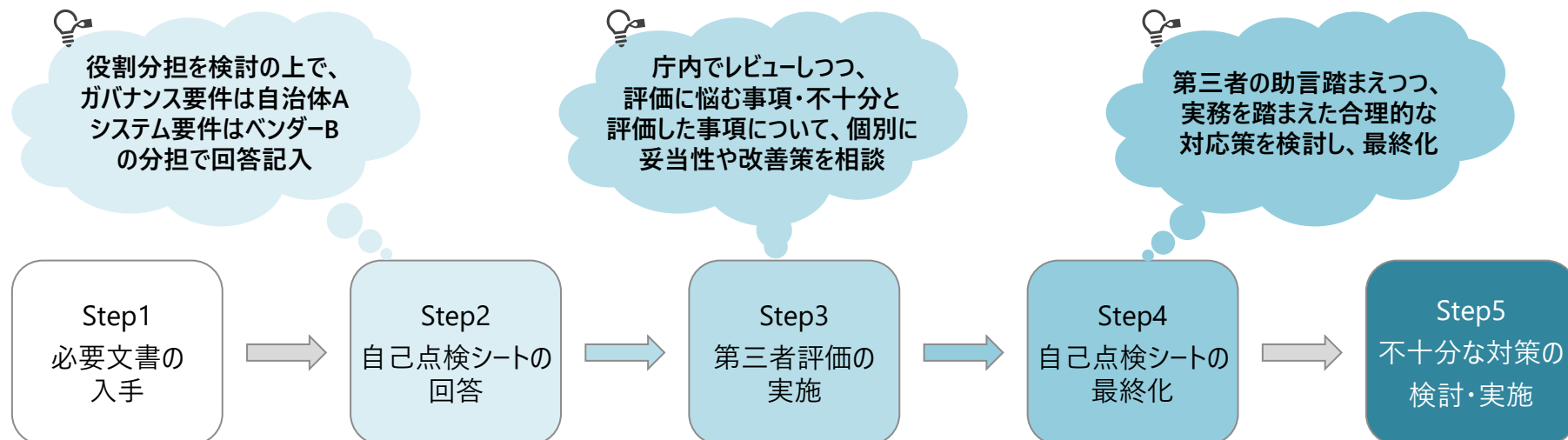
- 自治体Aには、セキュリティ・プライバシー等の有識者で構成された第三者委員会が設置されており、運用するデータ連携基盤のセキュリティや運用ルールの在り方の全体像について定期的に確認・助言を得ている
- 一方で、「自己点検シート」の個々の判断内容については、第三者委員会で議論するには具体的であることから、庁内において知見があるチーム (システムチーム) に依頼してレビューを実施
- 大半の事項は回答・評価に迷うことはなかったが、一部項目では、どこまで対策が講じられていれば十分と言えるかに関して、第三者から個別に助言を得て確認し、実務的なオペレーションへの影響も鑑みた上で合理的な対応策を検討した

登場人物

- ・ 整備主体 : 自治体A
- ・ 委託先 : ベンダーB ※自治体Aから、基盤の開発・運用を受託している事業者
- ・ 第三者 : 庁内の別チーム ※自己点検を実施する担当とは異なる、本件に一定知見のあるチーム

点検範囲

- ・ 互換性、安全性、プライバシー



※ 自己点検のポイントがわかりやすくなるようにした加工した事例であり、実際の対応とは異なります

【参考2】 自己点検の事例 (継続点検の事例)

◆ 事例ポイント

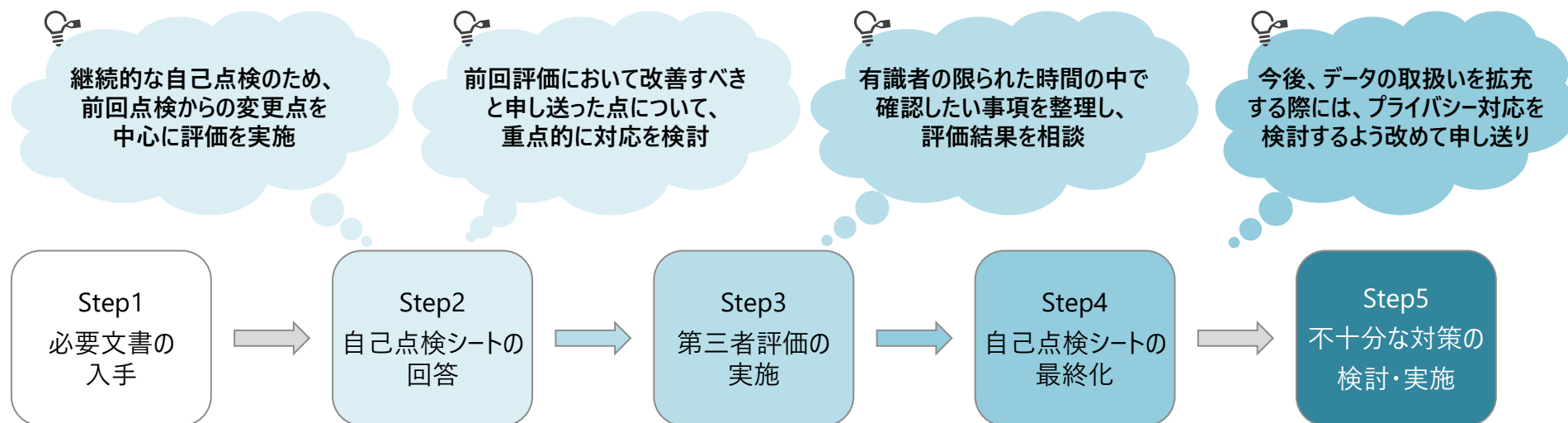
- 協議会C・自治体Dが運用する基盤では、現時点では「個人に関する情報」の取扱いを行っていないため、「求められる事項」におけるプライバシーに関する事項は評価対象から除外した上で評価を実施
- 2回目以降の自己点検では、全ての事項に対する点検は実施せず、前年度からの変更点を中心に評価を実施（特に「求められる事項」の改定により新たに対応が必要となった部分や、基盤を保有する協議会の運営体制が大幅に変更になった点を重点的に確認・評価を実施）
- また、自己点検シートを活用することで、前回評価において改善すべきとされていた点を漏らすことなく把握し、検討・改善を実施

登場人物

- ・ 整備主体 : 協議会C、自治体D ※基盤運営者は協議会だが、自治体と一体で運営している
- ・ 委託先 : ベンダーE ※基盤におけるシステムの開発・保守運用を協議会Cから受託している
- ・ 第三者 : 有識者委員会 (安全性) ※自治体Dに既存で設置されている

点検範囲

- ・ 互換性、安全性
- ※プライバシーは「個人に関する情報」の取扱いがないため対象外と整理



※ 自己点検のポイントがわかりやすくなるようにした加工した事例であり、実際の対応とは異なります